

1-③-1 沖縄振興計画における農林水産業の振興施策について

施策の方向：亜熱帯性気候等の地域特性を生かした農林水産業の振興

おきなわブランドの確立
と生産供給体制の強化

- ・亜熱帯性気候等の優位性を生かした活力ある産地の形成
- ・健康長寿、観光リゾート地にふさわしい「おきなわブランド」の確立

流通・販売・加工対策の
強化

- ・島嶼県としての不利性の軽減
- ・消費者等に信頼される農林水産物等の安定的供給体制確立

担い手の育成と農林水産
技術の開発・育成

- ・新規就農の促進、担い手の育成・確保等
- ・亜熱帯地域の特性に適合した技術の開発・普及

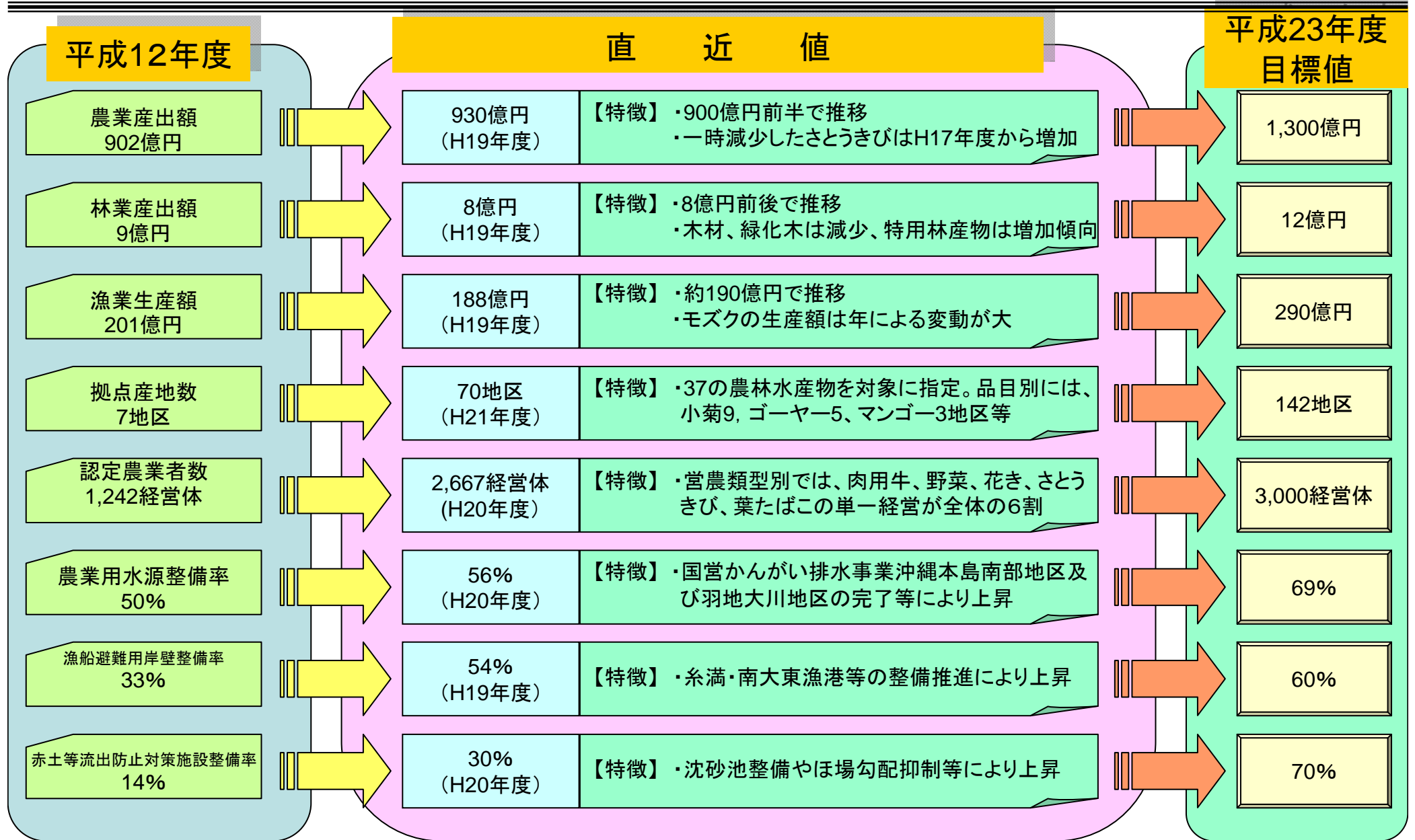
亜熱帯、島嶼性に適合した
農林水産業の基盤整備

- ・干ばつや台風等、気象条件に対応した基盤整備の計画的推進
- ・魚礁、増養殖場等の漁場及び漁港の一体的整備の推進

環境と調和した
農林水産業の推進

- ・農林水産業の自然循環機能の維持増進等
- ・豊かで美しい環境と調和した農林水産業の推進

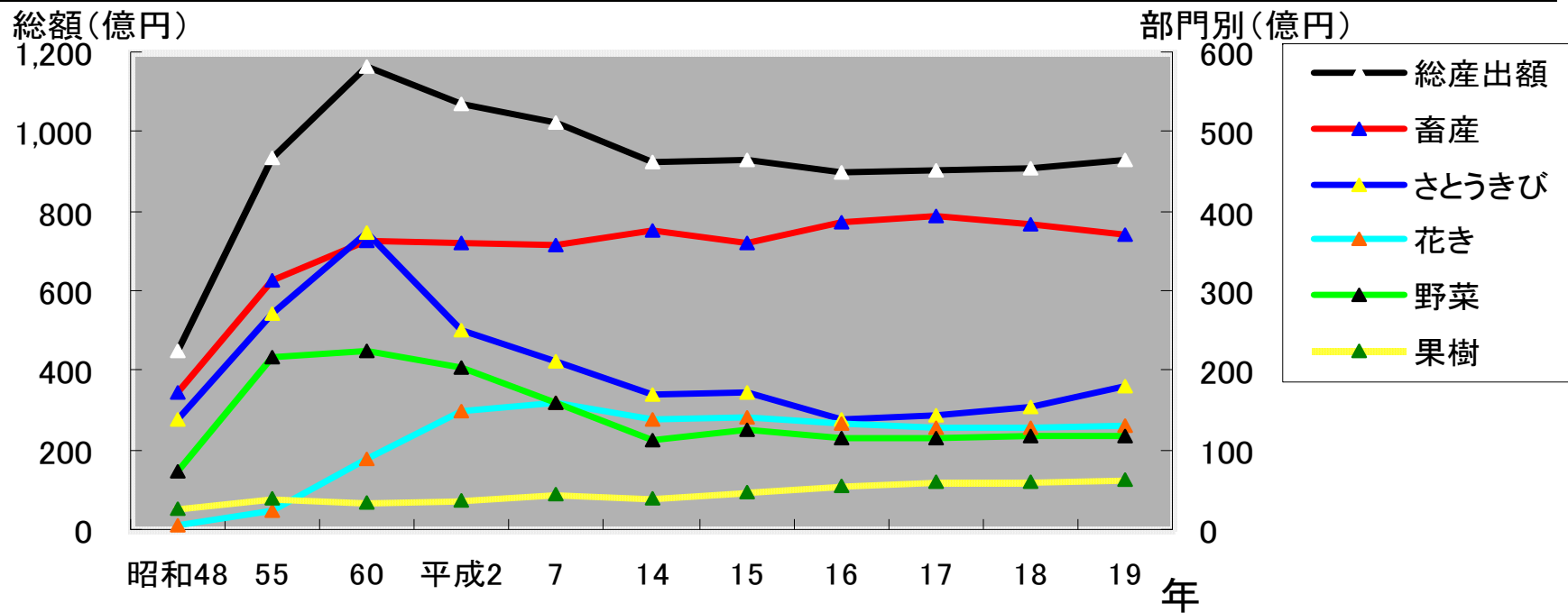
1-③-2 現行計画に係る主な指標と目標値



※平成12年度及び直近値のうち、農業産出額、漁業生産額については沖縄農林水産統計年報(沖縄総合事務局)、それ以外については沖縄県調べの数値を使用。
 ※平成23年度目標値については、第3次沖縄県農林水産業振興計画(沖縄県策定)の数値を使用。

1-③-3 農業産出額の推移

- ・農業産出額は、昭和60年度の1,161億円をピークに減少しているが、平成14年度以降は900億円前半で推移（平成19年度は930億円）
- ・畜産は、肉用牛が増加しているが豚は減少しており、全体では平成18年度以降減少傾向で推移（平成19年度は371億円）
- ・さとうきびは、昭和60年度以降減少していたが、平成17年度以降は天候に恵まれたこと等により増加傾向で推移（平成19年度は181億円）
- ・花きと野菜は平成14年度以降横ばい、果樹は増加傾向で推移（平成19年度は花き130億円、野菜118億円、果樹63億円）



※過去最高値は昭和60年の1,161億円

資料: 沖縄農林水産統計年報(沖縄総合事務局)

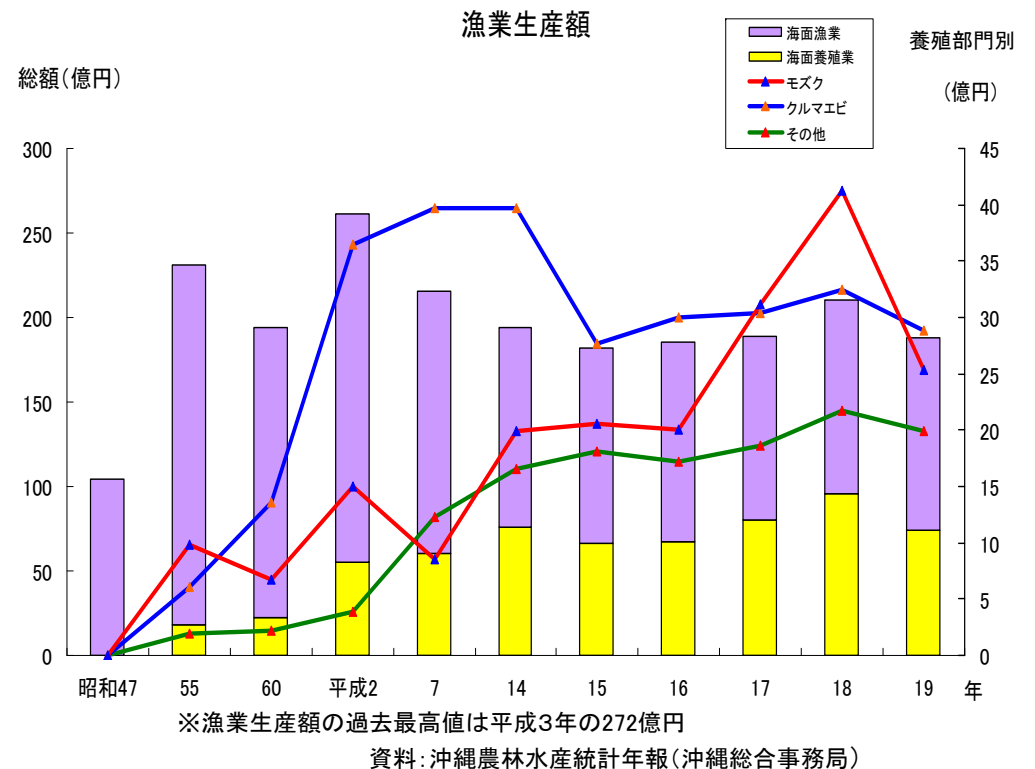
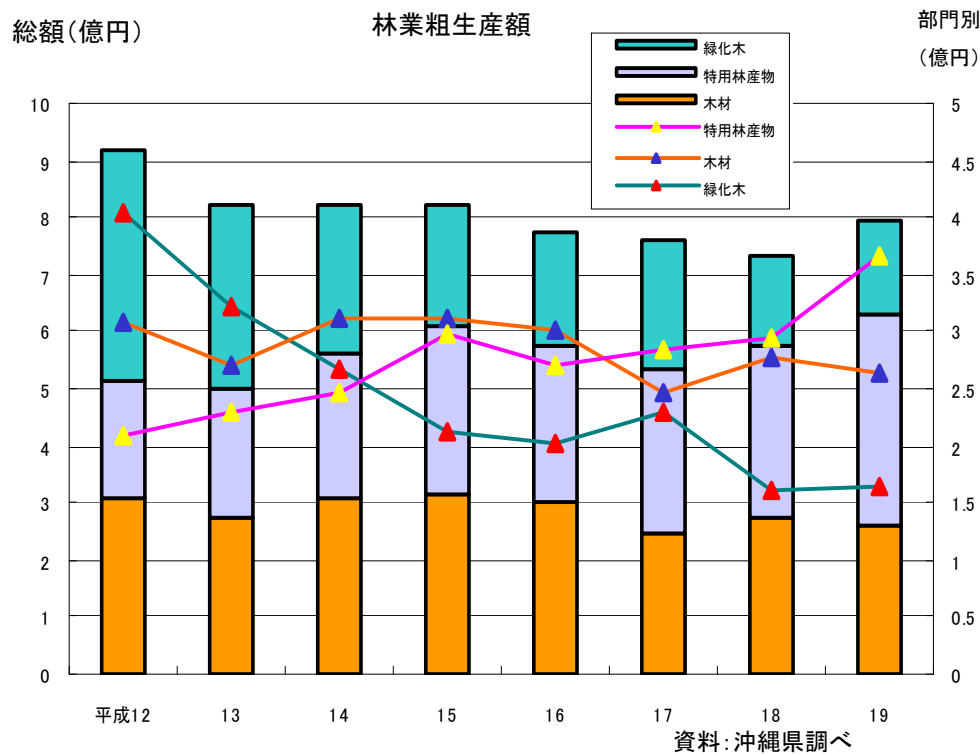
1-③-4 林業粗生産額及び漁業生産額の推移

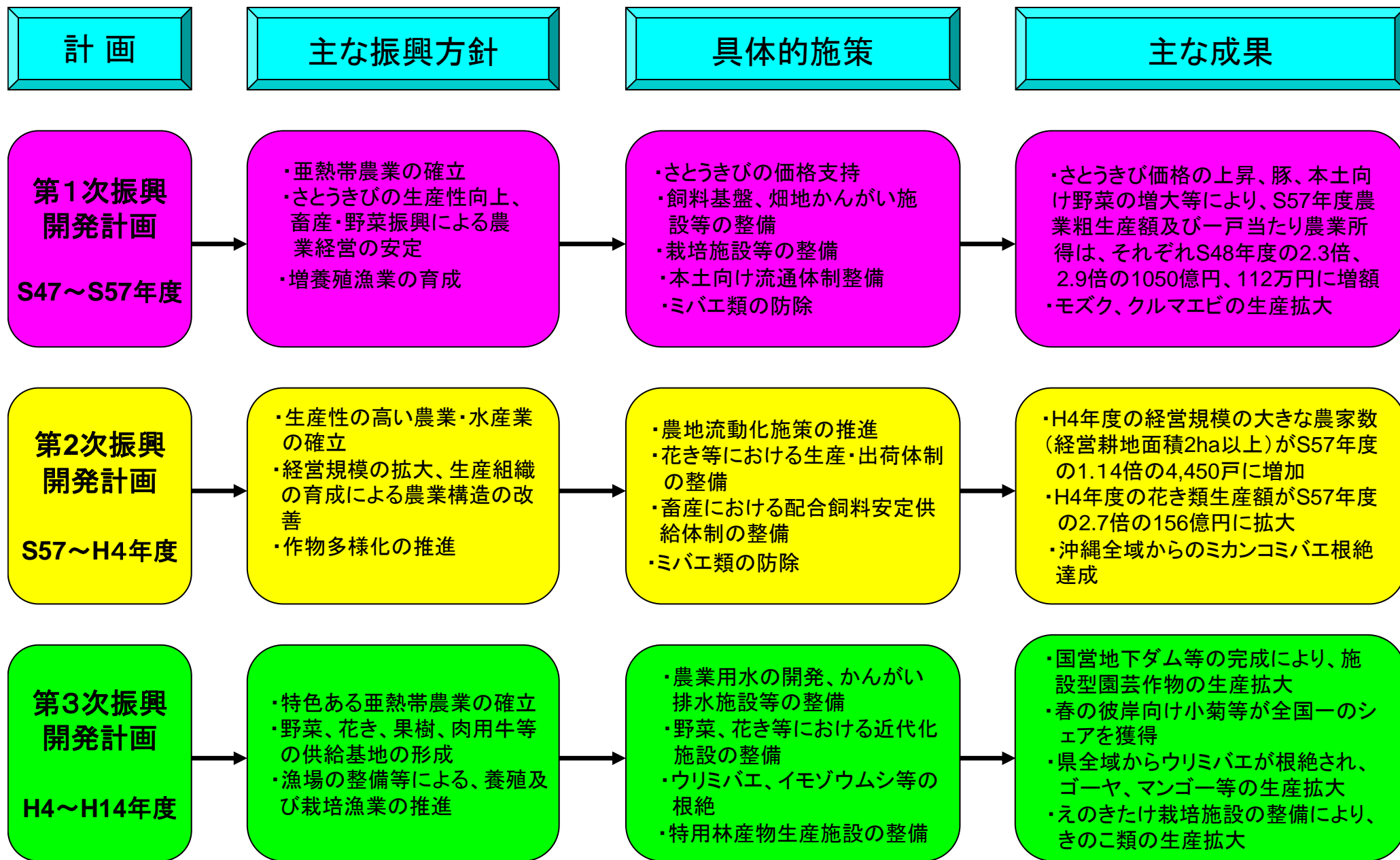
【林業粗生産額】

- ・林業粗生産額は、近年8億円前後で推移(平成19年度は7.9億円)
- ・木材及び緑化木は、需要量の減少により減少傾向で推移(平成19年度は木材2.6億円、緑化木1.6億円)
- ・特用林産物は、きのこ栽培施設の整備によるきのこ類の生産拡大により増加傾向で推移(平成19年度は3.7億円)

【漁業生産額】

- ・漁業生産額は、近年約190億円で推移(平成19年度は188億円)
- ・沿岸漁業は減少、沖合・遠洋漁業は増加傾向、また、海面漁業全体では約110~120億円で推移(平成19年度は114億円)
- ・海面養殖業は、モズクとクルマエビの変動が大きく、約70~100億円で推移(平成19年度は74億円)





1-③-6 沖縄の農林水産業を取り巻く環境と課題

WTO農業交渉

- さとうきび、製糖業の経営安定化・体質強化
- さとうきびの総合利用推進

食料自給率低下

- 地産地消の推進
- 観光産業との連携

食の安全・安心

- トレーサビリティの取組促進
- 有機農業の推進

産地間競争激化

- ブランド化の推進
- 農商工連携による付加価値向上

雇用・新産業

- 農林水産業部門における雇用の創出
- 健康・美容、環境・自然エネルギー等の新産業の創造

担い手不足

- 担い手農家、受託組織等の育成・確保



地球温暖化

- 循環型農業の構築
- 森林の整備・保全
- 海藻類のバイオ燃料化

病虫害発生

- ミバエ類の再侵入防止
- イモゾウムシ等の根絶

気象災害

- 農業用水の確保
- 防風林の整備
- 農業共済加入

島嶼性・遠隔地

- 輸送コストの低減
- 外国への輸出促進

漁業資源枯渇

- 資源管理型漁業、つくり育てる漁業の推進